

Medical Library 書評新刊案内

本紙紹介の書籍に関するお問い合わせは、医学書院販売・PR部(03-3817-5650)まで
なお、ご注文は最寄りの医学書院特約店ほか医書取扱店へ

プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト 第2版

中野 隆 ● 監訳

中野 隆, 中谷 壽男, 大野 伸彦, 内藤 宗和, 林 省吾, 易 勤, 山岡 薫, 伊藤 正裕, 若山 友彦 ● 訳

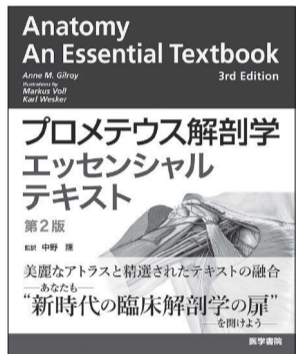
A4変型・頁656
定価:9,680円(本体8,800円+税10%) 医学書院
ISBN978-4-260-05215-3

評者 川島 真人
川島整形外科病院理事長/
日本医史学会名誉会員

本書は、前野良沢らが『ターヘル・アナトミア』を翻訳して以来の画期的な解剖書ではないか。評者が居住している大分県中津市は、根来東叔、前野良沢、村上玄水、田原淳など、解剖に関する優れた学者を輩出してきた。日本のヘーゲルとも称される三浦梅園は「解剖なくしては人間と自然とのつながりや有機的な病気との関係は解明されてない」と述べ、また日本最初の人骨図『人身連骨真形図』を描いた根来東叔は「眼球の解剖を知らないで治療するのは闇夜に光なくして歩くのと同じ」と、解剖の重要性を述べている。そのような中、前野良沢は杉田玄白らと蘭語の解剖書『ターヘル・アナトミア』の翻訳に着手した。翻訳の大半は良沢が担い、1774年には日本最初の本格的な解剖書として玄白が出版した。玄白は序文凡例で「解体は

医学の基礎であり、外科では緊急欠くべからざるものである」と述べているが、本書を読むと、まさに玄白と同じ思いを抱くものである。この『解体新書』をきっかけに、解剖を中心とした蘭学の研究は日本全体に広がった。東京、築地の聖路加国際病院前の中津藩中屋敷跡には、良沢らの功績をたたえる碑が今でも残されている。あらためて、世界の解剖史を振り返ってみよう。元来解剖というものは、人体という未知のものへの好奇心、真理追求の熱情を持って、実証主義と科学への挑戦を行うことで医学・医療の発展に貢献してきた。しかしながら、古代ローマのガレノス、古代ギリシャのヒポクラテスも、解剖の重要性に気付いてはいたものの人体の解剖まではできなかった。13世紀初頭のイタリアでモンディエーノが人体解剖を行い『解剖

令和の『解体新書』とも呼べる解剖学書



●「週刊医学界新聞」の名称および発行形態変更のお知らせ

弊紙は2024年4月より週刊発行から月刊発行(毎月第2火曜日発行・2色刷16頁建)に変更いたします。これに伴い、名称を「医学界新聞」と改めます。初回発行は2024年4月9日を予定しております。

これからも、日本の医学・看護領域における最新の知見を、公正に、的確に伝えるよう努めてまいります。引き続き、ご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

【第10回】結核

漢字好きな神経内科医が、中国に逆輸出された漢字医学用語の語源を探ります。

福武 敏夫
亀田メディカルセンター 脳神経内科部長

結核はいつから存在していたのだろうか。紀元前5000年頃の人骨や紀元前1000年頃のエジプトのミイラに骨結核の痕跡が認められていることから、当時から存在していたと考えられる。日本でも縄文時代の人骨には痕跡はみられないが、千葉県小見川の古墳から発掘された骨に結核の痕がみられたという〔酒井シヅ『病が語る日本史』(2002)〕。この例は壮年男性の腰椎・仙骨部分のカリエスで、股関節付近に及ぶ流注膿瘍痕も認められたという〔小片丘彦:新潟医学会誌. 1972; 86(11):466-77〕。『源氏物語』や『枕草子』の時代にも結核があったことがうかがわれる記述があるが、病名は「胸の病」の中に含まれ、江戸時代には「肺癆」や「癆咳」と呼ばれていた。中国でも7世紀には「癯癘」と呼ばれており、その後は症候により「虚癆」や「熱癆」などさまざまな言葉が用いられていた。

では、「結核」という語はいつからどこで用いられるようになったのか。中国には古くから別の皮膚症状を指す言葉として「結核」が使われていたようだ(福田真人:医事新報. 2020; 5024:54-5)。しかし、感染症疾患としては1566年の『全九集』にある「結核は熱甚しき時は鬱結堅硬にして集中のさねの如し」が最初の記述である(『日本国語大辞典』)。『全九集』の著者は月湖という日本僧である。月湖は明に渡り、いくつかの書物を成した。それらが後に日本に伝わってきたものの、刊行の記録は中国に残っておらず謎である〔真柳誠『龍谷大学大宮図書館と漢古典籍貴重書解題(自然科学之部)』(1997)〕。『全九集』はその後、織田信長など戦国の三傑に頼られた名医である曲直瀬道三によって増訂され、国内に広まっていった。

以上のような経過はあるが、感染症としての現在の結核を意識して「結核」が用いられたのは、天然痘ワクチンの普及に尽力した近代医学の祖と言われる緒方洪庵が1857年に翻訳してからという(福田真人)。運命のいたずらか、洪庵は西洋医学所頭取に就任してわずか1年で咯血して死亡した(享年54歳)。結核に冒されていたのだろう。

現在、結核の検査に用いられるツベルクリンは1890年にコッホにより創製された。当初は治療が企図され、翌年には日本でも試みられた論文がみられるが、成功しなかった。なお、ツベルクリンは中国では結核菌素と呼ばれている。

学』という著書を残したこと、またルネサンス期にレオナルド・ダ・ヴィンチが30体もの人体解剖を行い、779枚もの解剖図を残したことは極めて画期的なことであったが、正確な解剖書としてはアンドリアス・ヴェサリウスの解剖学書『ファブリカ』(1543年)を待つこととなった。評者はファブリカの実物を見た際に、その精密さが今日の人体解剖の水準と大きな差が無いことに驚いた。日本では山脇東洋が1754年に京都で初めて人体解剖を行い、1774年に『解体新書』が出版された。中津では、村上玄水や田原淳などが現在の心電図やペースメーカーの元となる刺激伝導系の発見に至ったことはよく知られている。

このように歴史的観点からしても解剖学の知見は臨床医学に応用されてきていることは明らかである。本書ではコラムという形式で、解剖学がいかに臨床医学に応用できるかを随所に展開している。さらにはCTやMRI、超音波などの知識も組み込まれており、これから医学・医療を学んでいく学生たちはもとより、すでに臨床に立つ医療従事者にとっても画期的な解剖書であり、極めて実用的なものとなっている。多くの医療従事者たちが熱望していた「解剖学の臨床医学への応用」という意味において、臨床医学の扉を開いたものとして「令和の解体新書」と呼んでふさわしいものではないだろうか。

ジェネラリストのための 第3版
内科外来マニュアル

編集 金城 光代・金城 紀与史・岸田 直樹

内科外来の
トップマニュアルに
待望の第3版が登場!

期待の第3版!
いつも
頼りになるのは
コレだ!!

●A5変型 2023年 頁880 定価:6,600円(本体6,000円+税10%) [ISBN978-4-260-04266-6]

内科レジデントの
鉄則 第4版

編集 聖路加国際病院
内科チーフレジデント

多くのレジデントに読まれてきました。
研修医になったら
まずコレ!

いよいよ改訂第4版!
実臨床で役立つ多くの「鉄則」を
教え上手の著者がわかりやすく解説
全国の初期研修医にも読まれています!!

●B5 2023年 頁512 定価:5,280円(本体4,800円+税10%) [ISBN978-4-260-05119-4] 医学書院

今号よりリニューアル

“頑張って読むINTENSIVIST”から
“早く次が読みたいINTENSIVIST”へ

INTENSIVIST

インテンシヴイスト

2024年 年間購読 受付中

Vol.16-No.1 2024
特集:ARDSの今を語り尽くす

責任編集:片岡 惇・中島幹男・則末泰博
1部定価 5,060円(本体4,600円+税10%)
ISBN978-4-8157-2079-7
年間購読料 19,360円(本体17,600円+税10%)

詳しくは弊社ホームページをご覧ください。
<https://www.medsj.co.jp>

公式サイト

表紙デザインもリニューアル

メディカル・サイエンス・インターナショナル